

# 意見交換会顛末（農業・林業・運送等分野）

令和7年11月18日 15時00分～17時00分

## ◎名寄市の発言

時間作っていただき感謝。

名寄市総合計画（第3次）策定の参考とさせていただく。

せっかくの機会なので、堅苦しいかたちで行うのも勿体無い。

役所職員が囲む形となるが、気にせず発言をいただきたい。

それぞれの団体で感じている課題やまちづくりに関する意見など伺いたい。

## ■参加者の発言

農業でも物流問題の煽りを受けている。

今後、今まで通りに農産品の輸送を行っていいのか。

## ■参加者の発言

丸太の場合は普通の運送でなくて、専門の運送業になる。特殊な形態になる。限られた業者しか運んでいない。自社でもトラック持っているが、繁忙期は業者に委託している。運送業者も減って来て、トラックの取り合いになっている。

伐採のピークは1月～3月になる。

## ◎名寄市の発言

なかなか物流の課題は感じない方が多いが、稚内市は物品の納品回数がどんどん減っていると聞く。運送業界において実際にドライバーは減っているのか。

## ■参加者の発言

運送業者は全国で50%が赤字であり、旭川地区は70%が赤字。そもそも儲からないから設備投資ができない。1年間で車両価格が300万円上がった。燃料も価格が上がるから運べない。ドライバーはどこも最低賃金。それが今の運送業界の現状。

物を運ぶ単価が安いのが大きな問題。箱車は上がらない。（お菓子、野菜、魚など）

#### ■参加者の発言

名寄・風連・智恵文は地域によって農地の動きが変わって来ている。風連は新しい就農者・離農者も多い。名寄は急に規模が拡大していたが、現在規模拡大ができなくなってきた。智恵文は条件不利地に手を出しにくくなった。また若手がいらない。

農業機械の進化が著しい。能力が上がる一方で、農協の設備は変わっていない。受け入れのミスマッチを感じる。名寄といえばもち米、アスパラ、スイートコーンである。麦米豆は一定程度確保できるが、野菜がどこまで維持できるか。機械化が進まない品目である。日持ちも短い品目としてスイートコーンがあがるが、多く入ることを見越してトラックを配車しており、運べないから生産抑制を行うなど問題が出てくるかもしれない。合併後野菜は3分の2くらいまで減っている。スイートコーンは顕著に減っている。

#### ■参加者の発言

大学生の援農ボランティアでなんとかやっているといる状況である。毎年来る人が変わるが、物覚えが早いから賄えている。農業機械を扱う人手不足。すぐに覚えられる物ではない。

#### ■参加者の発言

自分の家は家族経営で、面積はそこまで作れない。息子もいるがなかなか作業を進められない。面積は少し減らそうかと思っている。収入は欲しいけどなかなか面積は作れない。ICTの活用など効率を上げる必要がある。

かぼちゃの収穫のロボットもあるが、高額で買えない。

#### ■参加者の発言

智恵文峠で初めて熊を見た。智恵文は頻繁に出る。智北で畑荒らされたのもニュースになった。

前は1,500万円だったトラクターが倍の値段になっている。

スイートコーンは価格の変動が少ないので作りたい思いはある。単価の安定している物を作りたいのが生産者の思い。

11月8日に新規就農フェアに行ってみた。新規就農者はスタートした時に、投資するため、マイナスからスタートになる。いきなり広い面積の農地を受けた時に、自分だけでは全部を受け切れないので、新規就農者の方と分けるなどしたい。

かぼちゃを8町作付しているが、収穫は60代の方に4～5時間作業してもらっている。70代になったら新たな働き手を探さないといけない。

名寄市で尖った方向性を見せないと。どこかの二番煎じになっている感がある。

#### ■参加者の発言

農地の転用の許可などしている。智恵文と名寄と風連で道北なよる農協だが、地域によってそれぞれある。名寄は農地が取り合いになっている。緑丘、徳田、弥生は後継者が多くない。

風連は条件の悪いところがなかなか決まらない。みんなで協力して地域の農業のあり方についてまとめた農地計画を作ったが、なかなか思うようにいかない。

新たに就農したい方が、どんな目標があるかなどを聞けると、情報共有できると感じている。

#### ■参加者の発言

団体に新規で入ってくれる会員がいない。入ると自分の家の仕事などの時間を削らないといけなからできないという方が一定数いる。大学生が協議会の活動に参加したことが大学で評価されて、入ってくれる学生が増えたが、受け入れが大変になってしまっている。

援農ボランティアは送迎が無い。春の忙しい時期の送迎がネックになってしまっている。とうもろこしの収穫作業は朝早いので、その時間に大学生は呼べない。

#### ■参加者の発言

自分自身大学は農学部を出て、農業や自然に興味があった。卒業する時に農業法人も候補だったが、給料安い現状を見た時になかなかその道に行くのは厳しいと思った。土木建設リース会社に入ったが、給料はいいが労働面がブラック。これなら自分で農家をやりたいと思い、地域おこし協力隊として来た。

初めに、アスパラガスは都市部での需要が高いと伺い、名寄市がいいと思った。2件の農家さんから情報を伺い、手間がかかると知った。今の計画ではもち米メインでアスパラを少しというのが目標。

農業について若者だとネットの情報を見て、しっかりとした意思を持たないという人が多い。ギャップとぶつかって、辞める人が多くいるのかなと感じる。

畜産は24時間365日。

自分が調べた中で株式会社でお米の生産をされているところだと、ロボットトラクターで9時～17時勤務でしっかり労働時間決めているところもある。楽ができる農業体系だと新規にやってみたいという人は多いだろうと思う。自分は自主経営農家をやりたいと思うが。

自分としては就農したいので、サポートしてくれる体制があり新規就農に名寄市が向いていると自分で判断した。地域おこし協力隊制度に絡めている自治体も少ないし、着任したら放りだすような自治体もあると聞いたのでサポート体制が充実していると感じた。

#### ■参加者の発言

名寄市を PR するのはいいと思うが、名寄市としての着地点をしっかりと決めないといけない。明確に示してあげたらいいのではと思っていた。

#### ■参加者の発言

地域おこし協力隊員からは市と農協と普及センターで巡回してお話を聞いている。個人的に協力隊として来ている人がいる中でももう少し協議をして、就農に向けて具体的なビジョンを示せた方がいいのかなと感じている。3年間で形にならなかった際に、無駄な3年間になってしまうのではないかと心配。

#### ◎名寄市の発言

出口戦略は大事だと感じる。他のまちは協力隊の条件としてトマトのみなど野菜を絞る自治体があるが、名寄市はもち米にすると初期投資も大きくなるので、柔軟性を持たせた形で運用している。来た時に明確に作る物を決めてくる方もいる。途中から変わっていくことも多い。できるだけ思い描く出口に導いていきたいという思いはあるが、なかなか現状厳しい。100%イメージ通りの就農になった方は少ないと思う。どこまで良い農地を提供できるか難しい。選択できるくらいの農地を確保できるように、既存農家に土地の関係を情報収集している。独立就農の方もいるし、法人に入る方もいる。

名寄市の大学生をうまく活用をして、良い関係を保っていけると嬉しい。

大学生と新たな関わりについてアイデア、機械技術の進歩も大事、どの技術が求められているのかトレンドを把握しきれていない。名寄市の将来にあたって DX の観点についてもお聞きしたいと思っている。

#### ◎名寄市の発言

人口減少対策が課題に上がる。その中では産業が大事だと感じている。一次産業が大事だが、二次産業も伸ばしていく必要がある。

#### ■参加者の発言

森林組合の課題は組合員について、森林を保有している個人や企業が組合員だが、高齢化が進んでいる。親と子が土地を持っている時にどちらも組合員になれる。相続しないで放棄される森林も増えている。放棄される前に土地を探すことは大変。50～60歳代は1割もいない。

組合員でも森林の知識がない方も増えている。CO2の吸収源にもなるので、興味のある方はぜひ森林の保有者に。

#### ■参加者の発言

今の名寄市の財源で、事業者が活用する市の制度について、色々な業種がある中ですべてにマッチするのは難しい。業種によってマッチするものもある。今ある補助金・助成金を活用して事業を維持していくことが大事だと感じている。

#### ■参加者の発言

お酒を飲まない人でもふらっと来れるまちになればいいと思う。近隣自治体だとあまりご飯食べる場所が無い。

労働者についてスポットで忙しい時期に合わせて人材を地域で回せるような形が取ればいいと思う。聞くとところによると各業種で忙しい時期が全て被ってしまっているようだが。

#### ■参加者の発言

農家でも冬も稼ぎたいので、働きに出る人もいる。

冬の仕事と夏の仕事で回せるようになるといいと思う。

#### ■参加者の発言

働き方の話があったが、春から秋まで働き、冬はスノーボードをする人がいた。スノーボードをしたいからと通年雇用を断る人もいた。

大学生との新しい取り組みについて、援農ボランティアを大学に入る前から知っていた方が7割くらいいた。名寄市の地域外に市を知ってもらう機会になっている。取り組んだ大学生が名寄市の野菜の美味しさを知り、好きになったなど嬉しい意見を言っていた。援農ボランティアについては、希望者がいるのに受け入れ先を確保できていない状況もある。また、農地への移動についてデマンドバスという方法もあると思う。臨時便を出すなど、移動支援についてもあっていいのではないかな。

ボランティア期間以降も手伝ってくれている人もおり、家族に野菜を贈ったりしている。そのように輪が広がると思う。

■参加者の発言

新規就農された方も援農ボランティアを活用していると聞いた。送り迎えの課題があるというのは自分も知っている。一人でやっている方などは厳しいだろうなと感じる。

■参加者の発言

農地まで来てもらえると援農ボランティアの制度を使ってみたいなと思う。

■参加者の発言

公共交通について、交通弱者がバスで行けない早朝などの時間帯で、ニーズに合った交通のシステムがあればいいと感じている。

■参加者の発言

まちから運送会社がなくなるようなことにはなってはいけない。中央の企業が強くなっており、まちの運送会社が育たない土壌になっている。運送を適正価格で行うと小さな町の運送会社でも存続していけるが、大企業が安い価格で受けてしまい、適正価格で受けることができなくなると、まちの運送屋は立ち行かなくなる。

名寄市での物流拠点については稚内の事業者も注目している。札幌まではきついが、名寄までの運送なら事業を継続できるという人もいる。

■参加者の発言

漠然と農業に興味を持ってくる人もいる。農業は諦めたが、このまちは好きだと感じてくれた人を名寄市に残すことができると人口増の一つのきっかけになるのではないかな。明確な意思がなかった人も雇用のターゲットになると思う。